◆ 渋谷都税事務所長賞 ◆

「フィンランドで学んだ税金のこと」

渋谷区立鉢山中学校 3年 ルッツ 璃菜めい

私は去年、運良く一週間、フィンランドでの海外研修に参加する機会を得た。現地の学校に通い、同年代の生徒や先生方と交流したり、授業を体験させてもらったりした。いろいろな場面で日本との違いを感じたり、フィンランドらしい物事に触れることができ、とても充実していたと思う。そんな中、驚いたことの 하나가、フィンランドの物価の高さだった。自由行動はあまりない研修だったが、授業のあと、学校の近くの喫茶店に寄った時、スーパーでお買い物体験をした時、市内観光の途中お土産を買ったりした時など、お金を使う際にはいつも感じた。

研修中、物価が高い理由の一つは、消費税が高いからだと教えてもらった。フィンランドの消費税は24%だそうだ。日本の消費税の10%と比べると倍以上の高さだ。また、その他の税金も日本と比べると、とても高いという。

私は、税金が高い国なら、住むのは嫌だなあと漠然と感じた。しかし、聞いてみると、フィンランドに住んでいる人たちの幸福感はとても高いそうで、「世界幸福度ランキング」でいつも上位に入っていて、三年連続で世界一位になったこともあるそうだ。税金が高いのにフィンランド人の幸福感が高い理由はなんなのか、とても不思議に思い、調べてみた。

フィンランドは社会保障がとても充実していて、例えば、就学前教育から大学院まで誰でも無償で教育が受けられるそうだ。また、医療も無償またはとても安い費用で受診できるという。このような形で、高い税金が国民に還元されているので、約八割のフィンランド人が高い税金を払うことに納得しているという。税の負担は大きくても、安心できる生活が保障されているために幸福度が高いという結果になるのだという。

私は、これらのことを知り、税金に対する考え方が大きく変わった。これまでは、税金は安い方がいいかなとなんとなく思っていた。しかし、税金が安いということは、国や地方公共団体の収入が少ないということで、教育、公共事業、社会保障を充実させるための資金が十分ではなくなってしまう可能性があると感じることができた。税金は、国民の生活をより良くするために使われる資金になるものだからだ。

このように、税金を徴収して、それを教育、福祉、公共サービスとして社会に還元する税制という仕組みは、とても素敵な、なくてはならないものであると実感することができた。私も大人になったら、一生懸命働いて納税の義務を果たしたいと思う。